

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科〔2年制〕	2026年度	1、2年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
必修	関係法規・制度	佐藤 他	1単位

【授業の到達目標】

国家試験の対策を念頭に置き、まずは理解度をあげて知識を安定させる。小テストの反復により暗記をも定着させていく。後期は国家試験対策として出題確率の高いものからどんどん理解させていく。さらに高得点をとれるよう様々な問題を解くことで、筆記試験合格を目標とする。

【講義概要】

理容師法・美容師法による規制と行政による指導監督制度およびその他の関連法規を教育します。また、法規・諸制度を教育するためにその前提となる法制度、衛生行政についての基礎知識についても学びます。

【授業計画及び学習の内容】

- 1 法とは何かの説明から条例規則までの説明・問題とまとめ
- 2 衛生に関する説明と行政機関の説明・問題とまとめ
- 3 理・美容師法についての説明と定義、免許の説明・問題とまとめ
- 4 行政処分に関する説明・問題とまとめ
- 5 管理美容師に関する説明・問題とまとめ
- 6 昨年度の復習 問題 解説・管理美容師についてのまとめ 問題
- 7 前回の復習 問題 解説 と 理美容所の開設についてのまとめ 問題
開設者が講ずべき措置についてのまとめ 問題
- 8 前回の復習 問題 解説 と 理美容所以外での業務、立ち入り検査についてのまとめ問題
違反者に対する処分についてのまとめ 問題
- 9 前回の復習 問題 解説 と 罰則についてのまとめ 問題 関連法規についてのまとめ 問題
- 10 全範囲のまとめ 問題 解説
- 11 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う
- 12 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う
- 13 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う
- 14 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う
- 15 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う
- 16 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う

【成績評価の方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学力能力判定試験(1年後期、2年前後期の3回)により評価する。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とするが、国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。
担当教員は、法律学の学位を有し、塾講師の経験し専門学校で教鞭をとっている。国家試験の対策授業に長けている。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科[2年制]	2026年度	1、2年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
必修	衛生管理	(WEBへの氏名・プロフィール等の公開は希望いたしません)	3単位

【授業の到達目標】

理容・美容業務に携わるにあたり、感染を防止する手段として消毒法を論理的に理解する。感染症について理解を深める。公衆衛生および環境衛生についての専門的な知識の習得を促すことで、公衆衛生の向上に資する努力義務を理解する。国家試験に合格できる学力能力を習得する。

【講義概要】

理容業・美容業に携わるものとして、近代の公衆衛生を理解し、人の健康や感染症を予防することに繋げる。また、感染症についての的確な知識や技能を会得する。感染を防止する手段である消毒法を論理的に学び、理解する。

【授業計画及び学習の内容】

1	感染症 発見の歴史		
	法律・感染症の分類	消毒法	種類
	侵入経路による分類		消毒に必要な条件
	病原体別による分類		消毒法各論
	微生物の種類と構造		消毒薬の概要
	微生物の増殖と環境の影響		器具の使い方
	微生物の病原性と人体の感受性		消毒薬希釈法
	汚染・感染・発病と常在細菌叢		理容所・美容所の消毒
2～27	免疫・予防接種・感染源		消毒法・復習
	感染経路・宿主の感受性		
	感染症の予防の3原則		
	空気・飛沫を介する感染症		
	飲食物を介する感染症		
	血液を介する感染症		
	動物を介する感染症		
	感染症・復習		
28	公衆衛生の意義と課題、公衆衛生の歴史		
29	理容師・美容師の公衆衛生、保健所と理容業・美容業		
30	保健		
31	環境衛生の概要		
32	空気環境		
33	衣服・住居の衛生		
34	上・下水道と廃棄物		
35	衛生害虫とネズミ		
36～39	環境保全		
40～41	公衆衛生・環境衛生総復習		
42～48	感染症・消毒・公衆衛生の総復習		

【成績評価の方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学力能力判定試験6回(1前期2回・1後期2回・2前期1回・2後期1回)により評価する。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とするが、実験や国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。担当教員は、薬剤師免許取得。長年専門学校で教鞭をとり、特に国家試験の対策授業は、学生から高い支持を得る。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科〔2年制〕	2026年度	1、2年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
必修	保健(皮膚)	小塚	1.5単位

【授業の到達目標】

皮膚および皮膚付属器官の疾患を学ぶことによって、美容師・理容師として社会に求められている知識と責任を習得することを目的とする。また理容師美容師国家試験に頻出の内容について詳しく取り上げることで、全体の合格率向上を目指す。

講義概要

授業は教科書、および配布プリントを中心に行う。

【授業計画】

- ☆1 「1 皮膚の構造」・皮膚の表面、皮膚の断面、表皮についての授業
- ☆2 「1 皮膚の構造」・表皮と真皮の境～皮膚の部位差についての授業と第1章の練習問題
- ☆3 「2 皮膚付属器官の構造」・毛についての授業
- ☆4 「2 皮膚付属器官の構造」・毛について(後半)、脂腺、汗腺、爪についての授業と練習問題
- ☆5 「3 皮膚の循環器系と神経系」・第3章の授業、第2章と第3章の練習問題
- ☆6 「4 皮膚と皮膚付属器官の生理機能」・対外保護作用～知覚作用と皮膚反射についての授業
- ☆7 「4 皮膚と皮膚付属器官の生理機能」・分泌排泄作用～免疫・解毒・排除作用についての授業
- ☆8 「4 皮膚と皮膚付属器官の生理機能」・ビタミンD形成作用～爪のはたらきについての授業と第4章の練習問題
- ☆9 「5 皮膚と皮膚付属器官の保健」・皮膚と全身状態～皮膚と体内病変についての授業
- ☆10 「5 皮膚と皮膚付属器官の保健」・皮膚の水分と脂の状態についての授業
- ☆11 「5 皮膚と皮膚付属器官の保健」・皮膚・付属器官とホルモン～皮膚の保護と手入れについての授業
- ☆12 「5 皮膚と皮膚付属器官の保健」・毛の保護と手入れ～おしゃれによる皮膚トラブルについての授業
- ☆13～14 期末試験対策 前期期末試験直前の復習
- ☆15 「6 皮膚と皮膚付属器官の疾患」・皮膚の異常とその種類～皮膚疾患の治療法についての授業
- ☆16 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患 」・皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹についての授業
- ☆17 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患 」・日光皮膚炎～湿疹患者のケアについての授業
- ☆18 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患 」・口唇の疾患～下肢静脈瘤についての授業
- ☆19 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患 」・分泌異常による皮膚疾患についての授業
- ☆20 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患 」・化膿菌による皮膚疾患～真菌による皮膚疾患についての授業
- ☆21 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患 」・衛生害虫による皮膚疾患～感染症の皮膚疾患の予防についての授業
- ☆22 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患 」・毛と爪の疾患～皮膚の腫瘍についての授業
- ☆23～25 国家試験対策

【成績評価の方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験4回(各学年・前期・後期)により評価する。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とするが、国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。
講師は、企業健康管理室や内科クリニック業務で得た知識と経験をもとに身近な経験談による分かりやすい授業を展開する

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科 (2年制)	2026年度	第1学年・第2学年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
必修	保健(人体)	(WEBへの氏名・プロフィール等の公開は希望いたしません)	1.5単位

【授業の到達目標】

ヒトの体についてその成り立ちと働きを説明できるとともに、理容・美容の現場においてその知識を踏まえ、適切に効率よく施術を行うことができる。

【講義概要】

[1学期]身体構成とその動きを理解し、特に頭部への施術を安全に効率よく実施できる。
[2学期]身体内の情報の動きを理解し、お客様が安心して施術を受けられるよう配慮できる。
[3学期]身体内の物質の動きを理解し、特に体幹への施術を安全に効率よく実施できる。
[4学期]身体内の運動機能・情報伝達・物質輸送を把握し、理容・美容の施術に応用できる。

【授業計画及び学習の内容】

- 1 人体の捉え方と全身の扱い
- 2 口・鼻・目・耳とその周辺
- 3 骨と関節の構造と全身各部の骨
- 4 筋の構造と全身各部の筋
- 5 頭部・顔部・頸部の骨と筋
- 6 身体各部の表面構造
- 7 おさらい・定期試験・振り返り
- 8 中枢神経の機能
- 9 末梢神経の機能
- 10 内分泌系の機能
- 11 ホルモンと身体各部の調節
- 12 感覚器系の機能
- 13 呼吸器系と呼吸機能
- 14 おさらい・定期試験・振り返り
- 15 血液成分と心臓の機能
- 16 血管系とリンパ管系
- 17 消化器系と消化管の構成
- 18 消化のしくみと消化酵素
- 19 おさらい・定期試験・振り返り
- 20 身体構成と動作のまとめ
- 21 身体内の情報伝達のまとめ
- 22 身体内の物質移動のまとめ
- 23 人体の構造と機能のまとめ
- 24 おさらい・定期試験・振り返り

【成績評価の方法】

定期試験および課題提出等を加味して総合的に評価する。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

国家試験出題科目であるため、講義・演習を通し、学術的理解と同時に試験出題傾向に即した対応力を養成する。
担当教員は、薬剤師免許取得。長年専門学校で教鞭をとり、特に国家試験の対策授業は、学生から高い支持を得る。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科 (2年制)	2026年度	第1学年・第2学年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
必修	化粧品化学	(WEBへの氏名・プロフィール等の公開は希望いたしません)	2単位
【授業の到達目標】			
各種化粧品の分類・成分・性状・特徴について説明できるとともに、肌状態や使用目的に応じて、適切な化粧品を選び安全かつ効果的に運用することができる。			
【講義概要】			
[1学期]化粧品の主要成分について、その分類・配合目的・対象品目を説明できる。 [2学期]基礎化粧品およびメイク用化粧品について、肌状態に配慮して適切に運用できる。 [3学期]頭毛用化粧品および特殊化粧品について、毛髪科学に即して適切に運用できる。 [4学期]各種化粧品を系統的に分類し、肌・毛髪の状態や目的に応じて適切に運用できる。			
【授業計画及び学習の内容】			
<ol style="list-style-type: none"> 1 物質の構成と分類 2 溶液とコロイド 3 酸塩基と酸化還元 4 有機化合物と高分子化合物 5 化粧品の規制と取扱 6 水性原料・油性原料・界面活性剤 7 高分子化合物・色材 8 香料・特殊配合成分 9 おさらい・定期試験・振り返り 10 皮膚清浄用化粧品 11 整肌用化粧品 12 皮膚保護用化粧品 13 ベースメイクアップ用化粧品 14 ポイントメイクアップ用化粧品 15 シャンプー剤・リンス剤 16 トリートメント剤・スタイリング剤 17 育毛剤・除毛剤 18 おさらい・定期試験・振り返り 19 パーマネントウェーブ用剤 20 ヘアカラー製品 21 芳香製品 22 光の種類と身体作用 23 サンケア製品 24 特殊化粧品 25 おさらい・定期試験・振り返り 26 基礎化学のまとめ 27 化粧品基剤成分のまとめ 28 化粧品機能成分のまとめ 29 皮膚用化粧品のまとめ 30 頭毛用化粧品のまとめ 31 化粧品化学のまとめ 32 おさらい・定期試験・振り返り 			
【成績評価の方法】			
定期試験および課題提出等を加味して総合的に評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>国家試験出題課目であるため、講義・実験・演習を通し、学術的理解と同時に試験出題傾向に即した対応力を養成する。</p> <p>担当教員は、薬剤師免許取得。長年専門学校で教鞭をとり、特に国家試験の対策授業は、学生から高い支持を得る。</p>			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科(2年制)	2026年度	1.2年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
必修	文化論	(WEBへの氏名・プロフィール等の公開は希望いたしません)	2単位
【授業の到達目標】			
日本の理容美容の歴史、西洋・日本のファッション文化史・和装・洋装の礼装を理解し、国家資格の取得を目標とする。			
【講義概要】			
さまざまな髪型、化粧、服装の変遷流行を社会背景や時代の要請と結びつけて学びます。流行のメカニズムを知り、時代を読みデザインを起こすために、トータルバランスを含めて理解する。			
【授業計画及び学習の内容】			
1	総論・古代エジプト		
2	古代ギリシャ・ローマ・ゲルマン		
3	中世ヨーロッパ		
4	ヨーロッパ16・17世紀		
5	ヨーロッパ18世紀		
6	ヨーロッパ19世紀		
7	ヨーロッパ1910年から1920年代		
8	ヨーロッパ1930年から1940年代		
9	学力能力判定試験の解説によるまとめ		
10	イントロダクション、日本の理容業・美容業の歴史(発生～現代)		
11	ファッション文化史 日本編(縄文・弥生・古墳時代・飛鳥・奈良・平安時代)		
12	ファッション文化史 日本編(平安末・鎌倉・室町・戦国時代・戦国末・安土桃山時代)		
13	ファッション文化史 日本編(江戸時代)		
14	ファッション文化史 日本編(江戸時代・明治・大正・昭和20年まで)		
15	ファッション文化史 日本編(明治・大正・昭和20年まで②)		
16	ファッション文化史 日本編(1945年～1970年代)		
17	ファッション文化史 日本編(1980年代～2000年以降)		
18	まとめ		
19	学力能力判定試験の解説による課題の理解・錯視について		
20	1940年から1950年代	1960年代	
21	1970年代		
22	1980年代		
23	1990年代から現在		
24	ヨーロッパ文化史の復習		
25	和装・洋装の礼装		
26	日本編文化史の復習①		
27	日本編文化史の復習②		
28	日本編文化史の復習③		
29	総合学習		
30	学力能力判定試験の解説による課題の理解		
31	国家試験対策・まとめ①		
32	国家試験対策・まとめ②		
【成績評価の方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験4回(1前期・1後期・2前期・2後期)により評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが、国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。 担当教員は、美術大学卒業後、美容学校で文化論で教鞭をとっている経験から、国家試験の対策授業に長けている。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科〔2年制〕	2026年度	1、2年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
必修	○理容技術理論	☆小笠原 他	5単位

【授業の到達目標】

理論に基づいた正確な技術の習得の為に、理容技術の基礎となる理論を学び、国家資格取得を目標とする。

【講義概要】

技能の習得にあたり、各技術の基礎を確実に身につけるためのものである。具体的にいろいろな技術を学ぶ前に何のためにその技術を学ぶのかを理容技術理論で裏付けし、理解するものである。

【授業計画及び学習の内容】

1～3	序章 理容技術の基礎		
4～9	↓ 理容用具		
10～15	↓ シェービング		
16			
17		↓ エステティック	
18～29		↓ ↓	
30～35	総合学習		
36	学力能力判定試験		
37～40	学力能力判定試験の解説によるまとめ		
41	ヘアデザイン 理容クリニック		
42	↓	ヘアカットイング シャンプーイング&リンシング	
43～48		↓	
49～52		ヘアセッティング 理容マッサージ	
53		↓	
54			
55～65			
66		パーマメントセット	
67		↓	ヘアトリートメント
68～70			↓
71～73			
74～77	総合学習		
78	学力能力判定試験		
79～80	学力能力判定試験の解説によるまとめ		
81～83	ヘアカラーリング		
84～88	スカルプトリートメント		
89～101	総合学習		
102～107	学力能力判定試験対策		
108～109	学力能力判定試験		
121～126	総合学習		
127	学力能力判定試験		
128	学力能力判定試験の解説によるまとめ		
129～133	国家試験対策		

【成績評価の方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験4回(1前期・1後期・2前期・2後期)により評価する。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とするが、演習授業も適宜取り入れる。
担当教員は、理容室での経験をいかし、現場で必要とされる技術の裏づけとなる理論を教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科[2年制]	2026年度	1、2年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
必修	運営管理	川端 他	1単位

【授業の到達目標】

顧客の選択眼が厳しくなっていく中で経営者の視点から顧客に評価される店づくりを目指す経営について理解する。

【講義概要】

1年生では主に、顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学習。2年生では主に、人を雇うことの責任や働くうえで求められることについて学習する。

【授業計画及び学習の内容】

- 1 経営とは・経営者とは
- 2 資金の管理(資金管理の重要性)
- 3 資金の管理(コストを管理する、税金について)
- 4 資金の管理復習
- 5 中間試験対策
- 6 中間試験
- 7 中間試験解説
- 8 サービス・デザイン
- 8 マーケティング
- 9 サービスにおける人の役割
- 10 期末試験対策
- 11 従業員としての視点から(公的年金)
- 12 従業員としての視点から(医療・介護保険)
- 13 従業員としての視点から(労働保険)
- 14 中間試験対策
- 15 中間試験
- 16 中間試験解説
- 17 キャリアプランの重要性と理容業・美容業の経営について
- 18 人という資源
- 19 健康・安全な職場環境の実現
- 20 期末試験対策
- 21 期末試験
- 22 期末試験解説
- 23～ 試験対策

【成績評価の方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験3回(1後期・2前期・2後期)により評価する。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とするが、国家試験に向けた演習授業も適宜取り入れる。
担当教員は、経済学の学士。政策科学・学術の2つの博士の学位を有し、経営や管理についてわかりやすく授業を展開する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科[2年制]	2026年度	1、2年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
必修	理容実習	中村 他	30単位

【授業の到達目標】

理容技術理論に基づき、理容師として必要な技術の修得をめざす。
また国家試験に合格できる技術能力を習得する。

【講義概要】

理容師として身につけておくべき技術や知識を理容理論と並行して理解していく。理論の意味を理解して、基礎技術を身につける。美や造形のデザイン感覚、クリニック的な知識等、応用へと繋がるように理解させる。

【授業計画及び学習の内容】

1～2	ヘアカッティング			
3～11	(ワンレングス)	ワインディング(Cライン)		
12～21	↓	↓	シェービング	
22～42	ヘアカッティング(短髪型)			コンテスト対策
43～72	↓	↓	↓	サマーフェスタ作品制作
73～75	技術能力判定試験			
76～78	技術能力判定試験の解説によるまとめ			
79～84	ヘアカッティング(長髪型)		シェービング	
85～141	ヘアカッティング	ワインディング	シャンプー(バック)	コンテスト対策
142～149	↓	↓	↓	
150～152	技術能力判定試験			
153～155	技術能力判定試験の解説によるまとめ			
156～177	国試課題カッティング	国試課題シェービング		実務実習
178～242	↓	↓	シャンプー(リア)	
243～264	↓	↓	↓	サマーフェスタ作品制作
265～267	技術能力判定試験			
268～270	技術能力判定試験の解説によるまとめ			
271～302	↓	↓		コンテスト対策
303～305	技術能力判定試験			
306～308	技術能力判定試験の解説によるまとめ			
309～373	国試対策(カッティング)	国試対策(シェービング、セット)		
374～381	国試対策			

【成績評価の方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末技術能力判定試験4回(1前期・1後期・2前期・2後期)により評価する。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

実習形式を基本とするが、講義・演習・実技も適宜取り入れている。
担当教員は、理容師としてのサロン経験をいかし、現場で必要とされる知識、技術、接客力を教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科[2年制]	2026年度	1、2年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
選択・一般教養	生活文化と作法	出崎 他	1単位
【授業の到達目標】			
日常生活の中での礼儀作法やマナーを、学校の中での集団生活を通じて習得することを目標とする。 基本的社会規範やコミュニケーション技術を習得する。			
【講義概要】			
理容師として、社会人として、一般的に身に付けておきたい常識やマナーについて学び、集団の中での個々の役割、立場、振る舞いなどを考えていく授業。			
【授業計画及び学習の内容】			
<ol style="list-style-type: none"> 1 掃除の重要性 2 モラルについての研究 3 ツキを呼ぶ魔法の言葉・美容で感動を与える 4 美文字・ボールペンで美しい字を書く・縦書き・横書き 5 漢字検定・ビジネスシーンでよく使う漢字の読み書き 6 前期振り返り・日常生活におけるマナーと接客業のかかわりについて・レポート① 7 作文(小論文)の書き方 8 二十四節季・日本の四季 9 手紙の書き方・時候の挨拶・季節の挨拶・お礼状と縦書き封筒 10 履歴書の書き方・面接時の注意点 11 後期振り返り・日常生活におけるマナーと接客業のかかわりについて・レポート② 12 履歴書復習・自己PR文の書き方・就活対策 13 テーブルマナー研修 14 ビジネスマナー①・敬語・ビジネス語・謝罪の仕方 15 ビジネスマナー②・名刺の渡し方・来客対応・席次・お茶の出し方 			
【成績評価の方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、2回のレポートにより評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義と演習を基本形式とし、実技を適宜取り入れる。 担当教員は、理容師としての実務経験を活かし、美容師に必要なエチケット・マナーについて教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科〔2年制〕	2026年度	1、2年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
選択・一般教養	○造形心理と表現	☆①藏重 ☆②松永	1単位

【授業の到達目標】

- ・デッサンを通してものを正確にみる力を養い、的確な判断(一人一人に合う髪型等について)が出来るようになる。
- ・ヘアデザイン画において創作的な技術を身に付け、ヘアデザイン画が描けるようになる。
- ・色彩論の基礎を学びながら、実践的な造形表現力を身に付けることを目的とする。

【講義概要】

デッサンの基礎技術を学ぶ。
色彩の心理的効果や視覚効果、配色・コーディネート基礎などを学びつつ、混色のやり方や色彩構成などの基礎技術を学ぶ。

【授業計画及び学習の内容】

- ☆1 授業目的と流れ、課題、道具、ヘアデザイン画、デッサンについての説明
顔のパーツの位置づけの数字的考え方について説明・目と鼻の説明、教科書のトレース練習
- ☆2 唇と輪郭の説明、トレース練習
- ☆3 斜め、横など正面以外の顔の描き方について説明・それぞれの角度をトレース練習
- ☆4 髪の毛の描き方の説明、トレース練習。教科書を参考に顔と髪を描き提出
- ☆5 課題説明、課題の下準備、構図についての説明(参考資料引用)・下準備が終わり次第描き始める
- ☆6 課題の続き。描く上でのポイントなど個別での指導も行う
- ☆7 課題の続き。早く進んでいる生徒へヘアデザイン画再度説明、作成
- ☆8 課題の続き。仕上げのポイントなど説明、仕上げ提出
- ☆9 イントロダクション、色の仕組みについて・トーン表の作成
- ☆10 ミニテスト、色相・明度・彩度のプリント作成・色の心理的効果について
- ☆11 ミニテスト、色の視覚効果(対比・同化)・錯視について(「美容とデザイン」について含む)
- ☆12 ミニテスト、配色について・Work Paperの作成
- ☆13 ミニテスト、Work Paperの作成・色相環の作成、混色について
- ☆14 色相環の作成・色彩構成
- ☆15 色彩構成
- ☆16 世界の様々な造形表現について、色彩構成・色彩構成発表
- ☆17 復習・まとめ

【成績評価の方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、下記内容により評価する。
(1前期)教科書を参考にした顔、髪、デッサンを提出 (1後期)課題作品 A3イラストボードにデッサン(写真を参考。主に顔、髪を中心としたもの)(2前期)各提出物、ミニテスト及び授業態度により総合的に評価

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義・実習を通してデッサンでは教科書のイラストをもとに顔の各パーツや髪の毛の描き方、正しい配置等を習得する。課題の作品は写真を元に時間をかけて取り組み、描く事を通して観る力を養う。また、造形心理学では毎回プロジェクターにて資料投影(プリント配布)、ミニテストでの復習や色彩構成などの実技を通してさらに理解を深めていく。
①担当教員は美術大学を卒業、15年以上の美容室経営の経験をいかし、心理作用を分かりやすく教授する。②担当教員は、画家、イラストレーターとして活躍、大学での講師経験を活かし教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科〔2年制〕	2026年度	1、2年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
選択・一般教養	保健体育	中村	1単位
【授業の到達目標】			
・各種運動を通して、公正、協力、責任などの態度を身に付ける。 ・体育の授業力向上に向け、自己学習課題を明確にもち、主体的に学習に取り組む。			
【講義概要】			
綱引き、バレーボール、ドッジボール、バスケットボール、バドミントン競技を行い、チームを強化し、チームワークのあり方を学んでいく。			
【授業計画及び学習の内容】			
1 球技を通して、行動力、協力体制を培う			
2 球技 勝敗から主体的に勝利すべく道筋を研究する			
3～4 バレーボール競技			
5～6 ドッジボール競技			
7 球技を通して、自己課題への到達を目指し、チームの役割を担う力を養う			
8 球技 勝敗から主体的に勝利すべく道筋を研究する			
9～10 バスケットボール競技			
11～12 バドミントン競技			
【成績評価の方法】			
授業への参加を評価する。 全時間出席90点、1～2時間欠・80点、2～4時間欠70点、それ以上の欠時間を60点とし、授業における発言や態度(10点)を評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技を通して構成している。 中学校・保健体育の教諭免許状取得。スポーツを通して、チームビルディングの大切さを教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科[2年制]	2026年度	1、2年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
選択・一般教養	○接客法	☆小笠原 他	1単位
【授業の到達目標】			
・ビジネスマナーを理解し、理美容業における接客の技術を習得し、サロンで必要不可欠なコミュニケーション能力を身に付け、実務実習にて高評価を得ることを目標とする。			
【講義概要】			
サロンの接客業務を学び、ロールプレイングにより、接客スキルを向上させていく。また、ブレinstoーミングにより、接客に対する思いを共有していく。			
【授業計画及び学習の内容】			
1	サービス接遇の必要性の理解・挨拶・お辞儀		
2	言葉遣い・プラス言葉とマイナス言葉・敬語・接客用語・よさね言葉		
3	立ち振る舞い・身だしなみ		
4	電話対応		
5	伝える力		
6	コミュニケーション能力		
7	レセプション業務		
8	実務実習時の課題提示・職場の基本モラル		
9	実務実習報告・カウンセリング技術		
10	カウンセリング技術		
11	マナー研修・人に与える印象と接客マナー		レポート提出
【成績評価の方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、レポートにより評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
全体の2/3を講義、1/3を実習として構成している。 担当教員は、理容師の人材育成の経験をいかし、現場で必要とされる知識、接客力を教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科〔2年制〕	2026年度	1、2年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
選択・一般教養	総合学習	中村 他	3単位
【授業の到達目標】			
現代の社会問題について、現況と解決策を考え、社会との関わりを学習する。理容師としてだけでなく、社会貢献できる人材の育成を目標とする。			
【講義概要】			
講習 ・福祉活動 ・海外研修 ・国家試験筆記対策等を通して総合的に学ぶ。			
【授業計画及び学習の内容】			
1	悪徳商法被害防止講習：東京都消費生活総合センター		
2	コンテスト(東京大会)		
3	江ノ島ビーチクリーン	レポート①	
4	賃金セミナー：東京都労働局、日本賃貸業協会		
5	インターネット・SNSのトラブル防止講習：東京都消費生活総合センター		
6	コンテスト(学生技術大会)		
7	年金セミナー：中野年金事務所		
8	選挙セミナー：選挙管理委員会		
9	企業連携(アイブロー)		
10	租税教室 東京都租税教育推進協議会		
11	コンテスト(東京大会)		
12	企業連携		
13	コンテスト(学生技術大会)		
14	研修旅行・事前学習①フランスについて(オリエンテーション・日程)交流会・WELLAアカデミー研究		
15	研修旅行・事前学習②パリの芸術・ルーブル美術館について(自由行動案)		
16	研修旅行・事前学習③ フランス・パリの歴史・文化・パリ市街地について(最終日程)		
17	研修旅行・事前学習④ 交流会準備・練習		
18	研修旅行・事前学習⑤ 交流会準備・リハーサル		
19	海外研修 パリにおける美容、ファッション、風俗、習慣等を学ぶ	レポート②	
20	海外研修 まとめ・振り返り		
21	企業連携		
22	国試対策・衛生について		
23	国試対策・筆記模擬		
24	解答まとめ		
25	企業連携		
【成績評価の方法】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、2回のレポートにより評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義と実技を基本形式とし、演習を適宜取り入れる。担当教員は統括的に指導経験豊かな教員が教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科〔2年制〕	2026年度	1、2年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
選択・専門教育	トータルビューティー	入口 他	2単位

【授業の到達目標】

(ネイル)商材知識、操作方法を理解し、JNEC主催ネイリスト技能検定3級合格を目指す
 (メイク)メイクアップ検定3級資格取得を目指す
 (ヘア)技術の幅を広げ、技術向上を図る

【講義概要】

(ネイル)ネイリストベーシックのマスター。ネイルケア、ネイルアートに関する基本的な技術及び知識の習得
 (メイク)ナチュラルメイクのベーシックの技術の習得
 (ヘア)フェードスタイルに関する基本的な技術の習得

【授業計画及び学習の内容】

	メイク	ネイル	ヘア
1	メイク概論		
2	スキンケア		
3～5	ベースメイク	ネイル理論	
6	ポイントメイク	↓	
7	↓	テーブルセッティング	
8			
9～11	↓	ケア技術	ハイフェード
12	色彩	↓	↓
13		フラワーアート	
14～15	検定対策		
16	↓	ホリッシュ塗布	ミドルフェード
17		通しトレーニング	↓
18	↓		ローフェード
19～21	検定試験		↓
22～23	ポイントメイク応用		
24～25	課題制作		
26	課題発表		
27～29		検定対策	↓

【成績評価の方法】

(ネイル ヘア)全時間出席90点、1～2時間欠・80点、2～4時間欠70点、それ以上の欠時間を60点とし、授業における発言や態度(10点)を評価する。
 (メイク)出席70% 検定試験評価30%として評価する。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

実習形式を基本とするが、講義・演習も適宜取り入れる。
 担当教員はサロン業務の経験をいかし、現場で必要とされる知識、技術、接客力を教授する

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科〔2年制〕	2026年度	1、2年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
選択・専門教育	総合技術	中村 他	3単位
【授業の到達目標】			
<p>様々な理容の技術に触れ、知識と技能を習得する。 オムニバス形式の授業中で、業界に求められている技術を研究する力を培う。</p>			
【講義概要】			
<p>基礎から最新の技術まで、理容に関する幅広い知識と技術を実践を通して身に付ける授業。</p>			
【授業計画及び学習の内容】			
1	カットデモンストレーション		レポート1
2	メイクデモンストレーション		
3	ウィッグ講習(三矢)		
4	ライトドライヤー講習		レポート2
5	サロンスタイリスト講話		
6	ヒカリシザーズ講習		
7	カットデモンストレーション		
8	メイクデモンストレーション(ラグゼ)		レポート3
9	フォト講習 カメラの基礎知識・作品撮り		レポート4
10	サロンスタイリスト講話		
11	ヘアショーの実践		
12	パーマ講習 見学		
13	校内技術コンテスト		レポート5
14	JAPONコンテスト		レポート6
15	カットデモンストレーション		
16	メイクデモンストレーション(顔分析)		
17	サロンスタイリスト講話		レポート7
18	ビューティーフォト		
19	理容デモンストレーション		
20	サロン講話		
21	カットデモンストレーション		
22	カラーセミナー		
23	ヘアショー見学による研究		
24	カットデモンストレーション		
25	男袴・女袴 デモンストレーション(マイム)		
26	メイクデモンストレーション(ラグゼ)		
27	サロン講話		
28	ヘアショーの実践		
☆29～32	ヘアスタイル制作 (理容室ザンギリ)		作品評価
33	ヘアショー 振り返り		
34	校内技術コンテスト		
35	サロンスタイリスト講話(RED★HOT)		
【成績評価の方法】			
<p>授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、1年は7回のレポートを評価し、2年は作品を評価する。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>実習・実技を基本とするが、講義も適宜取り入れる。 担当教員は、サロンワークの経験をいかし、理容室における時代のニーズに合わせた技術や知識をより実践的に教授する。</p>			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
衛生専門課程	理容学科[2年制]	2026年度	1、2年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位数
選択・専門教育	選択実習	出崎 他	8単位

【授業の到達目標】

(理容)理容技術の応用を習得することを目標とする。
 (エステ)日本エステティック協会実技力確認実技試験の合格レベルまで技術向上をはかることを目標とする。

【講義概要】

(理容)理容技術の応用として、現場で行われているお客様に対応できる知識と技術の理解と習得を目的とする。
 (エステ)フェイシャルエステティック・ボディエステティック・ワックス脱毛・エステティック機器等知識と技術の向上を目的とする。

【授業計画及び学習の内容】

理容	エステ
1 開閉練習・姿勢	エステティックの理論
2～3 メンズカット	↓
4 ↓	運動生理学・栄養学
5～6 ワインディング	↓
7～8 ↓	ボディエステティック
9～12 ↓	↓
13 メンズカット	↓
14～18 ↓	↓
19 シェービング	↓
20 ↓	↓
21～22 ↓	↓
23～25 ↓	↓
26 ↓	↓
27 ↓	↓
28～31 ↓	↓
32～46 ↓	↓
47～54 ↓	↓
55～59 レディースカット(外部講師)	↓
60 クラシカル(外部講師)	↓
61～63 ↓	↓
64～66 クラシカル復習	↓
67～76 メンズカット	↓
77～80 スタンドシャンプー	↓
81～83 ↓	↓
84～86 ↓	↓
87～88 ↓	↓
89 ↓	↓

理容
 21～22 カット
 21～22 シャンプー
 84～86 メンズカット・パーマ
 87～88 メンズカット・カラー①

エステ
 エステティック機器学
 フェイシャル
 生命活動とホメオスタシス
 ワックス脱毛
 認定試験対策
 カウンセリング

【成績評価の方法】

授業への参加を評価する。
 全時間出席90点、1～2時間欠・80点、2～4時間欠70点、それ以上の欠時間を60点とし、
 授業における発言や態度(10点)を評価する。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

実習・実技形式を基本とするが、講義・演習も適宜取り入れる。
 担当教員は、サロンワークの経験をいかし、理容室における時代のニーズに合わせた技術や知識をより実践的に教授する。